SDMT 日本語臨床資料

符号数字モダリティ検査｜実施・採点解説と記録用紙

正規マニュアル・刺激用紙との併用が必要です。
公式日本語版・検証済み翻訳ではありません。標準刺激、練習刺激、採点鍵、規準表は未収録。この資料単独では正式検査を実施できません。

1. 何を測るか・誰が答えるか

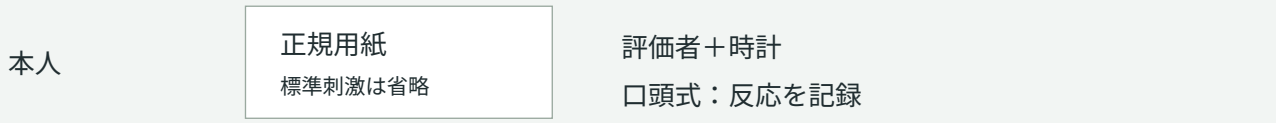
本人が対応表を見て符号に対応する数字を答える実技検査です。主に情報処理速度を捉え、注意・視知覚・作業記憶・回答の運動や発話も関与します。家族の代理回答や生活観察による採点は行いません。

書字式は本人が記入、口頭式は本人が発声し評価者が記録します。形式ごとの得点を合算せず、形式・版を結果に添えます。

2. 開始前に条件をそろえる

正規用紙・手引、ストップウォッチ、記録用具、書字式では筆記具を用意。静かな環境、安定した座位、机・照明を整えます。眼鏡、視力・視野、無視、数字の理解、失語・構音、上肢機能、疲労を確認します。

役割・物品の説明図（距離・配置の規定ではありません）



3. 説明 → 練習 → 本試行 → 終了

① 説明	② 練習
9組の符号・数字の対応を参照。暗記させて対応表を隠す課題にはしません。教示は正規手引に従います。	一般的な手順では10項目で理解を確認。説明・訂正は使用版に従い、練習分は本試行へ加算しません。
③ 本試行：90秒	④ 終了・照合
所定の開始位置と順序で実施。口頭式では反応を追って記録。独自の時間延長・正答誘導は行いません。	90秒で終了し、時間内の反応を照合して採点。中断・計時失敗・手順変更は理由とともに残します。

全体は説明・練習を含め約5分が目安。原版、旧CAT、日本のBICAMS研究の手順や規準を混用しません。現行CAT-RにはSDMTは含まれません。

採点原則と境目の確認

主指標：90秒間の正答数。標準的な110項目の用紙では0〜110。多いほど課題成績が良好。正規用紙を照合して採点します。

4．反応と採点の対応

反応・状況	扱い・確認すること
時間内の正答	正答数に含める。練習項目は含めない。
誤答・空欄	正答として加えない。独自の負点を追加しない。内訳は別記。
時間切れの未到達	正答数には加わらないが、回答した誤答とは区別する。
行飛ばし・途中の空欄	最終到達位置だけで計算せず、実際の反応と各項目の対応を照合する。
自己訂正・境界反応	訂正や90秒終了時の反応の扱いは、使用版の手引で確認。
未実施・中断・不成立	0点で代用せず理由を記録。短縮時間の得点を90秒換算しない。推定値で補完しない。

架空例：時間内に47個回答、うち誤答3個なら正答数は44。回答数47を得点にはしません。

5．結果の解釈と再評価

書字式では使用手・麻痺・疼痛・巧緻性・装具等を記録します。口頭式でも視力・視野・無視・失語・構音の影響は残ります。形式を変更した得点差を、そのまま回復量にしません。

基準値は年齢・教育歴・回答形式・参照集団を確認。日本のMS研究の平均や再検査相関を、脳卒中全般のカットオフ・個人の改善判定へ流用しません。

再評価では形式・版・条件・間隔・過去の受検歴を記録。標準刺激の反復練習による上達と、日常生活の改善を区別します。

正規手引で確認する範囲：教示全文、訂正・誤反応への対応、試行順、境界反応、中断後の再実施、全項目終了時の扱い、適用する規準。公開資料で確認できなかった規則を独自に補っていません。

独自の欠損コード・補完法は定義していません。「未実施」「中断」等は状況の記録で、公式の数値コードではありません。診断、運転、復職の可否はSDMT単独で決めません。

実施条件・結果・経過記録

独自記録欄です。標準刺激用紙にある回答の記録・採点を置き換えません。

対象者ID：_____評価日：___年__月__日
評価者：_____年齢：___歳_教育年数：___年

正規手引・用紙の名称／版・フォーム：
回答形式（書字／口頭）：_____実施歴・前回日：
回答者：本人_使用言語：_____利き手／使用手：

実施条件（眼鏡、視覚・発話・上肢、装具、環境、疲労など）

実施状況	結果（成立した標準試行）
本試行の実施時間：____秒 成立／未実施／中断／その他： 練習での理解確認：	正答数：_____／110 回答数：_____誤答数： その他の反応所見：

変更・中断・評価困難の内容と理由／規準との比較可否

比較項目	前回	今回
日付・形式・フォーム		
正答数・条件の違い		

生活の困りごと・追加評価・支援方針（独自欄）

原資料・入手先・位置づけ

Smith A. SDMT. WPS, 1973／1982 manual. 正規製品：parinc.com/products/SDMT
Benedict et al. 2012. doi:10.1186/1471-2377-12-55
Niino et al. 2017. doi:10.1177/2055217317748972 ／ FITBIR: SDMT Total raw score.
国内版：higherbrain.or.jp/publication/test/cats/

原版の権利者に帰属。本資料は独自の日本語解説・説明図・記録欄です。標準刺激の転載許諾は未取得。翻訳・複製・Web再配布はWPSの出版目的許諾申請で確認。正式評価には正規用紙を使用し、説明図は代用しません。確認：2026年11月。